

【園目標】 心も体もたくましい元気な子	【前年度の成果と課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・継続して遊び込めるよう、施設的环境を活かしたり環境を再構成したりする。 ・PDCAサイクルをしながら保育実践ができるよう、週案の書き方を工夫する。 ・子育ての楽しさが伝わるよう、学年便り作成や保育参観、懇談などを行う。 ・危機意識が高まるよう、様々な場面を想定した訓練や研修を行ったり、マニュアルを見直したりする。
-------------------------------	--

○保育者 ☆関係者

観 点	短期目標(評価項目)	自己 評価	保護者 評価	評価及び意見の概要
子 ど も へ の 保 育 ・ 教 育	身 体 的 発 達 ○リトミックや運動遊びの講師に学んだ運動遊びやリズム遊びを計画的に取り入れた保育をする。	3	3.7	○講師から学んだことをチャレンジカードに取り入れたことで、様々な運動遊びに意欲的に取り組めた。また、保育者や友達に励まされたり、認められたりする機会を設けたことで継続して取り組み達成感を味わうことができた。 ○週案の書き方について園内研修をしたが、長期的な見通しをもった保育に至らなかった。 ☆「チャレンジカード」の取り組みで、根気よく努力しようとする力が身に付き、できることが沢山増えたという喜びを味わえた。 ☆とりわけリトミックは音楽をよく聞きながら保育者の動きをよく観察する力が必要であり、協調性や社会性も身に付くという効果もあるので継続して取り組んでいくと良い。 ☆親子リトミックでは一緒に体を動かす楽しさが伝わり、子育て支援にも繋がった。
	社 会 的 発 達 ○異年齢交流や集団遊び等人と関わる遊びを意図的に取り入れた週案を作成し、実践する。	3	3.5	○ごっこ遊びを通して、友達や異年齢と関わる楽しさや喜びを知ることができた。 ○関わりが広がり深まる為の交流ができるような計画を立て、丁寧に互いの思いを代弁したり仲介したりする援助に努める。 ☆ごっこ遊びでは役割分担して他者と協力したり、話す聞く、ルールを守るという社会性も育むことができる。また遊びを通して自分の思いが必ずしも受け入れられないことを知り、葛藤しながら道徳性や思いやりの心を育み、自己コントロールする力も芽生えてくると思う。 ☆異年齢交流は、兄弟の少ない子にもあこがれやいたわりの心が育つなど多くのことを学ぶことができている。
	精 神 的 発 達 ○園内外の環境を十分活かしたり、継続して遊べる環境の再構成をしたりする。	3.1	3.6	○一時保育室やめばえルームにサーキットを常設したり、遊戯コーナーでごっこ遊びを再構成したりするなど施設を活かしたことで遊びを継続することができた。 ○これから子どもたちの興味関心に合わせて遊びが広がるよう、素材の準備や選択しやすい環境の工夫を継続していく。 ☆天候に関係なく運動遊びやごっこ遊びが継続できるよう施設の活用を工夫したことで、試行錯誤したり表現したりする力が身に付いた。 ☆季節感が味わえたり、身近な物を使って工夫したりできるアイデアいっぱいの環境である。更に主体的に遊びたい環境づくりを願う。 ☆子ども達も一緒に草取りをしたり、雑巾がけをしたりして生活の場を大切にしようとする心も育まれている。
<small>す 子 保 育 支 て 者 ・ ・ 等 家 地 庭 域 に の 対</small>	保 護 者 支 援 ○学年便り発行や参観、懇談で園生活の様子を伝えたり、願いを共通理解したりする。	3.3	3.3	○学年便りを活用してねらいをもった保育をしていることをエピソードや写真を取り入れて分かりやすく発信することができた。 また、懇談で具体的に成長や願いを共通理解することができた。 ○今後は子ども一人一人が遊びを通して多くのことを学んでいることを、幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿で語る保育力を身につける。 ☆活動の様子が写真を入れて作成されており、レイアウトも見やすく保護者も楽しみやすくなっている。 ☆参観後もスマホでアンケートを取っているため保護者も参加しやすく、ペーパーレスや職員の仕事の効率化にも繋がっている。 ☆今後も、コミュニケーションを重ね信頼関係を築きながら、共に子育てしているという姿勢を伝える取り組みをしてほしい。
<small>体 実 制 施 全 運 般 監</small>	危 機 管 理 ○様々な訓練や研修を行ったり、地域性を考慮してマニュアルを見直したりする。	3.4	3.6	○外部講師の研修を活かして安全な避難方法を学んだり、マニュアルを読み合わせしたりして、危機意識を高めることができた。 ○今後もヒヤリハットが起きた時は、その都度情報共有したり、環境を見直したりして再発防止に努めていく。 ☆子どもは危機管理能力が乏しいため、園は消防・市と密接に協力したり、地域・家庭と連携したりすることが不可欠である。 ☆常日頃から危険箇所はないか見回ったり、不備があれば修理したりしており、子どもが安全に遊んでいるという安心感に繋がっている。 ☆今後も様々なことを想定し、職員一人一人がどう動くか共通理解したり研鑽を積んだりしてほしい。

【次年度に向けて】・日々の遊びの継続の延長上に行事(運動会・発表会・作品展など)があるという意識をもち、見通しをもって取り組んでいけるよう長期的な計画を立案する。

- ・ねらい達成に至るまでの過程が大切であるということ認識し、環境と援助について職員間で語り合う時間を確保する。
- ・子ども達の主体的な活動が、より充実したものになるよう、日々の活動や遊びのねらいを意識したサークルタイムの在り方を工夫する。
- ・個の特性に応じた支援ができるよう、子どもの発達について多面的に考察をして保護者と願いを共通理解をする。